

## ◆ 今週のコメント

- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.41(58例)です。先週に比べ増加しており、過去5年平均値を大きく上回っています。年齢階級別では、3歳～6歳が70.7%(41例)を占めています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は、2.22(91例)です。5週連続で増加し、本年で最も多くなっています。年齢階級別では、3歳が26.4%(24例)と最も多く、1歳～3歳が63.7%(58例)を占めています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、7.44(305例)で、先週に比べ減少していますが、第14週から連続して過去5年平均値を上回っています。
- ・ 例年、初夏から夏場にかけて、夏風邪と呼ばれる手足口病、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの患者が増加しますので、今後の動向に注意してください。手足口病については、トピックスを参照してください。

## ◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、1.90(78例)で、本年で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 1例(肺結核 なし, 肺外結核 1例, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 なし)  
【1月以降の累積報告数 115例(肺結核 74例, 肺外結核 23例, 無症状病原体保有者 18例), (喀痰塗抹陽性 30例)】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.09	6
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.44	305
	② 水痘	2.22	91
	③ 手足口病	1.90	78
	④ 流行性耳下腺炎	1.41	58
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.63	26
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

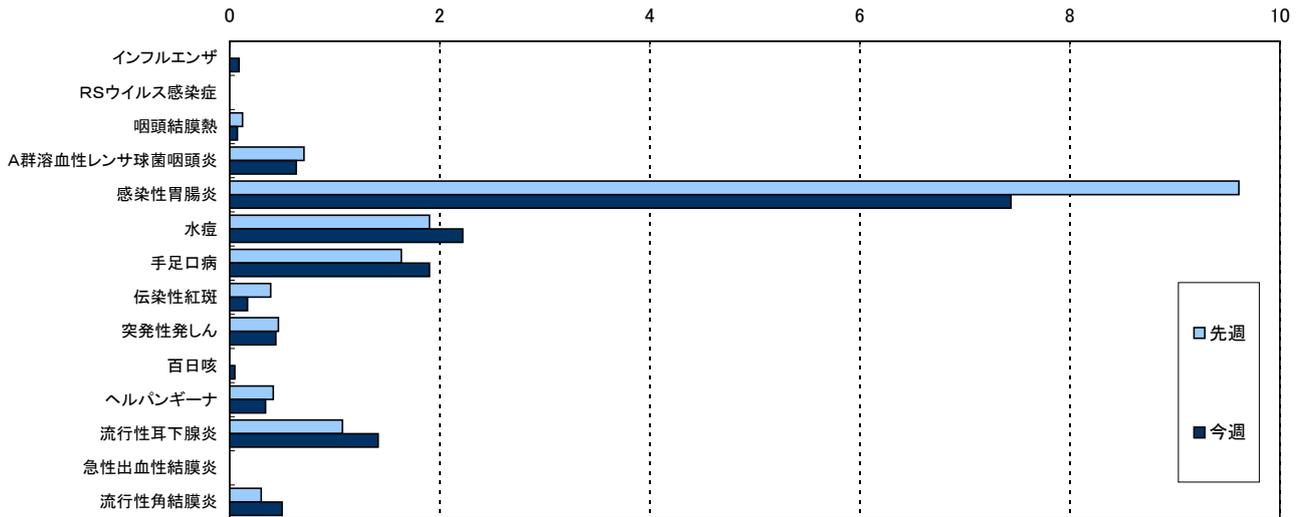
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

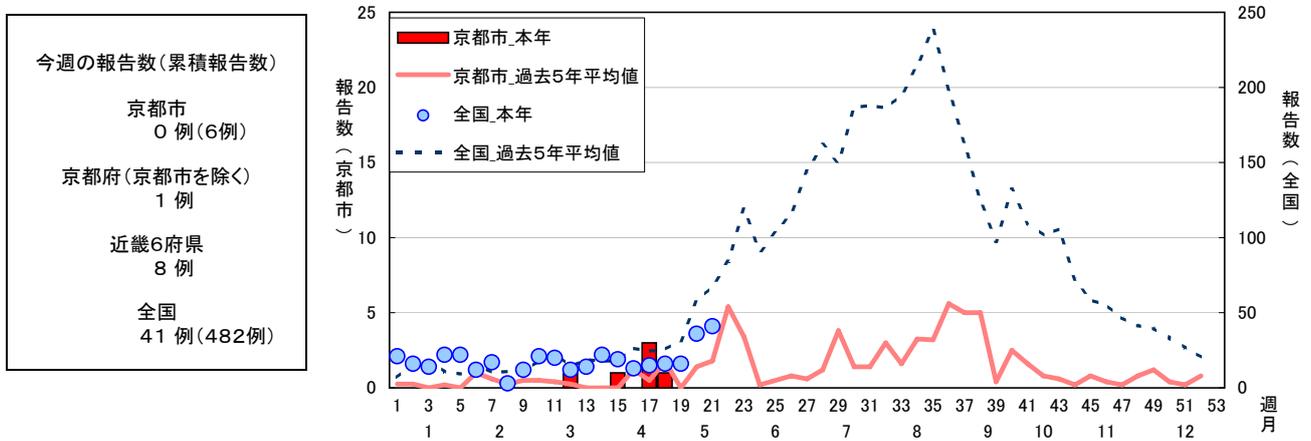
(注) 京都市のデータは、平成22年6月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第21週)と先週(第20週)の定点当たり報告数の比較

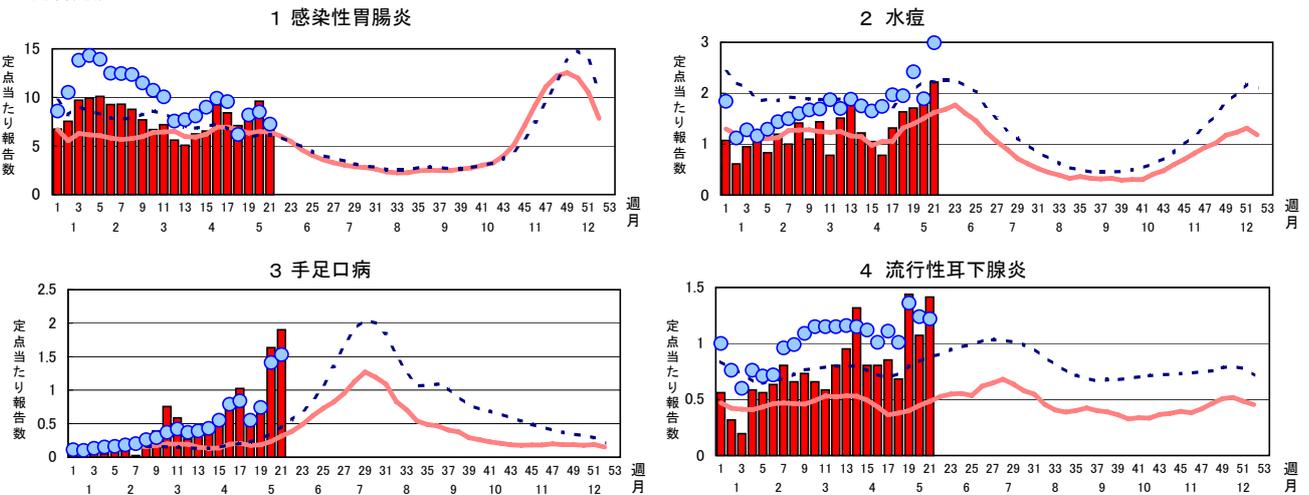


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第21週(5月24日～5月30日)トピックス: <手足口病>

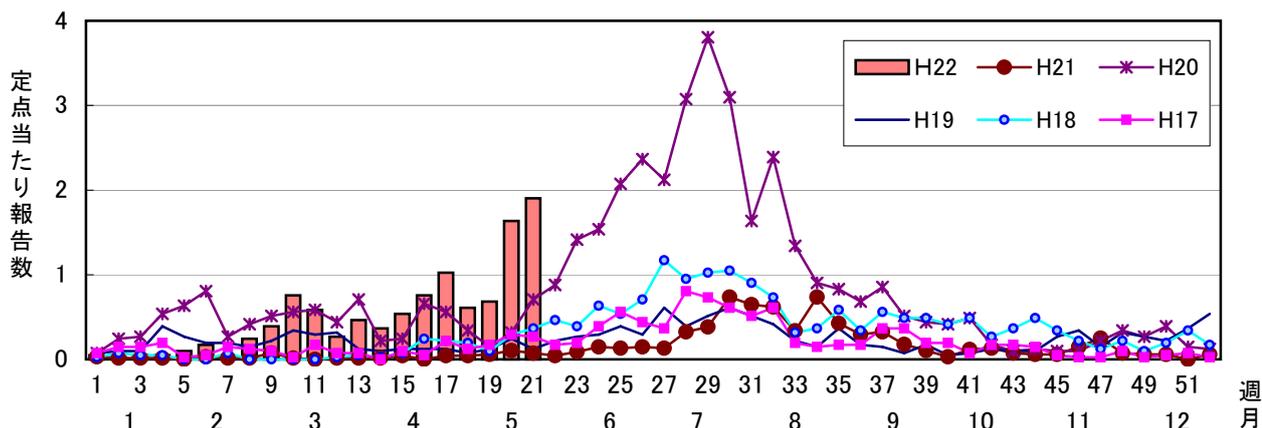
手足口病の定点当たり報告数は、1.90(78例)で、本年度で最も多くなっています。手足口病は、夏季に流行のピークが見られますが、本年度は、例年より早い時期から患者数の増加が始まっており、今後、更なる増加が予想されます。

年齢階級別割合をみると、2歳が、32.1%(25例)と最も多く、1歳～3歳が61.5%(48例)を占めています。

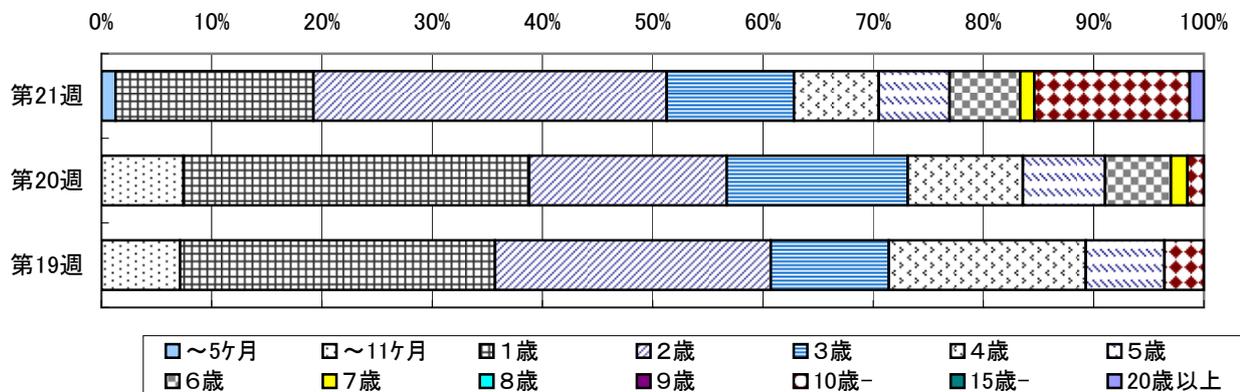
行政区別にみると、南区、東山区、伏見区、西京区が多くなっています。

京都市衛生環境研究所で検査を実施した手足口病の方の検体からは、中枢神経合併症の発生率が他のウイルスに比べて高いとされるエンテロウイルス71型(EV71)が分離(第3週、第8週)されています。今後の動向に御注意ください。

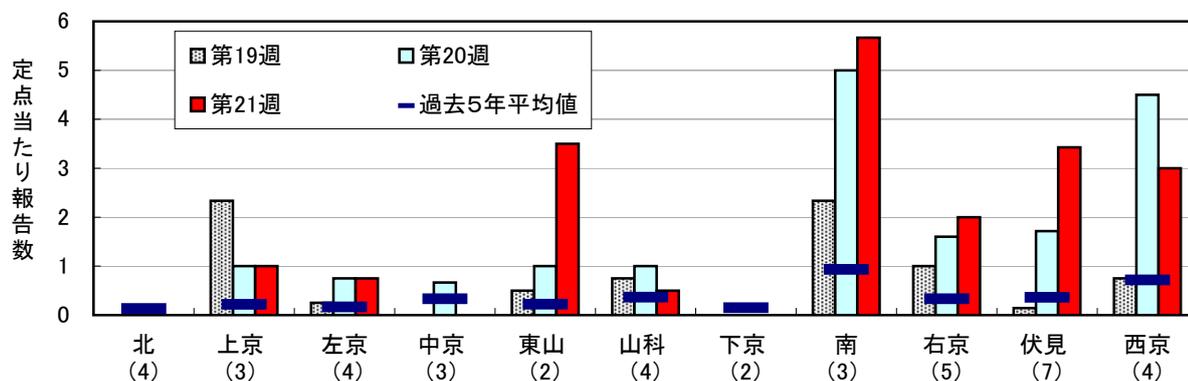
本市の定点当たり報告数 推移(平成17年～平成22年21週)



年齢階級別構成割合



行政区別定点当たり報告数の推移



( )内は、定点医療機関数